



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



E・N・S通信

No.36



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター
Saitama Center for Climate Change Actions



Index

表紙寄稿：鬼澤真之氏(学校法人自由の森学園理事長)
第5回 SDGs エコフォーラム in 埼玉 開催
断熱改修ワークショップ開催
省エネ相談
埼玉県地球温暖化防止活動推進員紹介、他
事務局からのお知らせ



教育と経営の二刀流でゼロカーボンをめざす

学校法人自由の森学園理事長 鬼澤真之

飯能市にある自由の森学園は、2月6日に行われた脱炭素チャレンジカップ2024に出場し、文部科学大臣賞(社会活動分野)を受賞しました。教育実践としてのESD(持続可能な開発のための教育)と、学園経営における脱炭素化を一体でエントリーしました。

脱炭素の重要な結節点としての2030年はもう目前に迫っています。未来を担う子どもたちに持続可能性に関する学びが必要なことは当然ですが、ここまで環境を悪化させたのは子どもたちではありません。地球環境を大事にしようと呼びかける大人こそが必死になって脱炭素に取り組む姿を見せなければ、子どもたちが本気でそのメッセージを受け取ることはないのではと思います。

その意味で教育に携わる機関は、持続可能性により重い責任を負っていると考え、自由の森学園は2009年に体育館の暖房にバイオマス熱利用を開始し、震災以降は電力の100%再生可能エネルギー由来への転換など、脱炭素化をすすめてきました。2021年には学校寮の給湯、暖房に薪ボイラーを導入し、地元産の製材端材や間伐材の熱利用に取り組んできました。

また、学園の公用車は、使用済み天ぷら油を精製したBDFを燃料としました。生徒有志による「天ぷら油プロジェクト」が立ち上がり、生徒や保護者に対する協力の呼びかけが始まりました。今年度の全校行事である体育祭はBDFで発電した電力で運営されるなど、学園全体に脱炭素の活動が広がっています。





第5回SDGs エコフォーラム in 埼玉を開催しました！

12月2日(土)、十文字学園女子大学にて、恒例の第5回SDGs エコフォーラム in 埼玉を開催しました。

今回は、コロナの影響も緩和される中で、4年ぶりに大学開催が実現しました。当日は会場へ200名以上、また、オンラインでも多くの方に参加いただき大盛況に終えることができました。

午前中は、全体会として挨拶、基調講演、高校生によるSDGsスピーチ、埼玉県エコアップ認証事業所表彰式と続き、挨拶では公務でお忙しい中、新



座市長にも立ち寄っていただき祝辞をいただきました。

基調講演では、本大学の志村 不二夫学長より「栄養の持続可能性という見方で、SDGsをながめてみよう」というお題で講演をいただきました。志村学長のご専門である栄養学に焦点をあて、栄養はすべての生命体に共通な営みであり現象である。栄養なくして生命はない。故に栄養の持続可能性はSDGsにつながるというお話でした。

高校生によるSDGsスピーチは、西武台高校STEAMコース1学年の方々に、社会課題プロジェクトに取り組んだ内容紹介として、「災害とエコ」をテーマに“発電する靴”、

“備蓄品を簡単に管理できるアプリ”のアイデアを発表いただきました。

午後は、5つの分科会「持続可能な食を考える」、「生物多様性保全と地域の保護活動」、「子どもの未来と省エネ」、「いきることの豊かさへのポジティブマインドセットを考える」、



「若者が創造する脱炭素な未来」に分かれて、現状認識、課題、解決方法等の共有化を図るとともに知見を深めることができました。

3年前から実施している「若者が創造する脱炭素な未来」分科会は、大学生が中心となつて、企画、準備、発表準備を自主的に行い、当日は運営を担いました。若者分科会では、今回は若年層から高齢者層まで幅広い年代が集まり、議論が大いに盛り上がりました。

コロナが軽減されたことで、分科会終了後に交流会も開催することができ、お酒も少々入り楽しい一時を過ごすことができました。今回も多くの方に寄付を賜り、誠にありがとうございました。





断熱改修ワークショップを開催しました！

夏に引き続き、厳冬の最中の1月20日(土)、断熱改修ワークショップを開催しました。東武鉄道旧草加社員住宅(団地)のリノベーションに合わせて、スケルトンとなっている住居内で断熱ワークショップを行いました。床と壁に断熱材の施工体験、窓の断熱方法の紹介、さらにDIYでできる内窓づくり等を体験しました。当日は雨模様の中、参加者は20名、協力者は27名と多くの方に参加いただきました。

夏開催した遮熱改修ワークショップと同様に、一般社団法人 Forword to 1985 energy life の全面的な支援を得て、東武鉄道(株)、旭化成建材(株)、マテックス(株)、(有)トミナガ、(株)カインズ、(株)テンシールド、(株)ソウカブンの皆様に協力をいただきながら断熱について学習しました。

今回は自称“断熱男 竹内昌義先生”(東北芸術工科大学教授)から講義を受け、断熱について学んだのち、各部分の断熱改修体験を行いました。

参加者からは、「断熱性の重要性を感じた。地域に戻ってワークショップを実行したい」、「我が家がとても寒いのが悩みだったので、参加して持ち帰るヒントが出来た。ぜひ、家で断熱を実行してみたい」、竹内先生からは、「サーモグラフィ等を用いることにより効果の見える化ができ、ワークショップが

進化しているのを感じた」、「断熱の取組は地味で効果が目に見えないものだが、ワークショップをとおしてその効果を体感し実感することができる」という感想をいただきました。

【壁断熱の手順】



①最初に木枠を設置



②断熱材をサイズに合わせてカット



③断熱材をはめ込む



④サーモカメラで断熱材を施工した効果を確認!



DIYでできる小窓の内窓作り



内窓の効果を測定 (右) 内窓なし (左) 内窓あり



断熱改修

断熱は窓から

断熱改修のHPを作成しました。スマホにも対応しています。内容は、断熱改修啓発動画や冊子、身近にできる断熱方法についての紹介、断熱改修ワークショップの様子等となっています。身近な断熱方法について紹介もしていますので、ぜひご覧いただき実際に取り組んでみてください！

<https://www.kannet-sai.org/dannetsu/about/>



省エネ相談会を開催しました！

省エネによる温暖化防止や光熱費の削減を訴求するために、埼玉県の委託事業で、昨年引き続き県内15回の省エネ相談会を開催しました。さいたま市、越谷市、草加市、所沢市、戸田市等で開催された、各種イベント等にブース出展し、省エネ相談会を実施しました。日常的に行っている省エネ行動を数項目列記したアンケートシートを用意し、立ち寄った方々にアンケートに協力いただきました。結果、609件回収できました。一方、省エネという言葉に親しんでいただけるよう、お子様向けに省エネシール作りをワークショップ形式で行いました。大変好評で900人ほどのお子様体験してくださいました。シール上のコバトンやゾウのイラストに塗り絵をし、持ち帰ってスイッチやコンセントに貼ってもらうことで、省エネを実践してもらいました。



そうか環境とくらしフェア 2023 (草加市)



Act Green ECO WEEK 2023 (越ヶ谷レイクタウン)



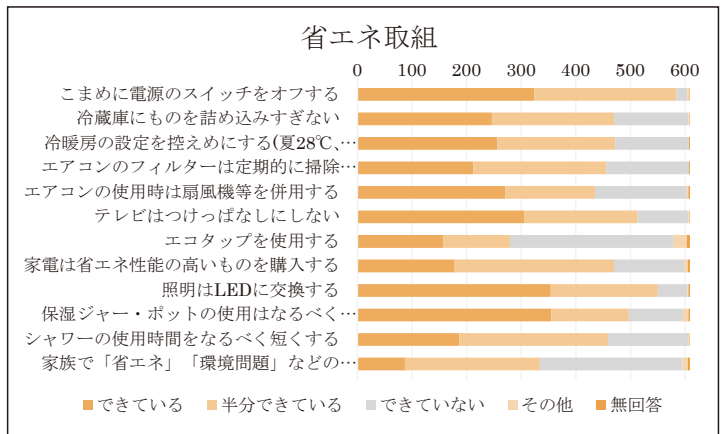
県庁オープンデー (さいたま市)



ララ MEETS EVENT(春日部市)

【アンケート結果】

- 「こまめな電源オフ」が最も多く取り組んでおり、続いて「LEDへの交換」「テレビをつけっぱなしにしない」と続きます。
- 保温ジャー等、LEDへの交換、こまめな電源オフは半数以上の方が取り組んでいる。
- 「エコタップ使用」が最もできていないが、用語の問題が影響している可能性がある（エコタップという名称の認知度が低く、イメージができていない人が多い）



中小事業者向け省エネ診断と脱炭素経営セミナーを開催しました！

「埼玉県省エネナビゲーター事業」及び経産省の補助事業「地域プラットフォーム構築事業・省エネお助け隊」を活用し、埼玉県内の中小事業者を対象に省エネ診断と支援、さらに省エネお助け隊では、茨城県内の事業所へも省エネ診断と支援を行いました。

当団体は、主に省エネ診断や脱炭素経営アドバイス等の希望者へ専門家を派遣し具体的な支援を行っています。今年度は、埼玉県省エネナビゲーター事業では37件、お助け隊では30件に及ぶ中小事業所の省エネ診断や支援を実施しました。



さらに、今年度は脱炭素経営セミナーを2回開催し、先進事例の情報提供を行う等、周知啓発にも力を入れました。両会合わせて130名ほどの参加がありました。脱炭素経営には、何から取り組んだら良いのか、どんなことをすれば良いのか、そのメリットは、支援策は等、疑問の多い中で当団体は常時相談対応を行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。また、専用サイトもHP上にアップしていますのでご覧ください。

<https://www.kannet-sai.org/scnp>



埼玉県地球温暖化防止活動推進員のご紹介

今回は、川口市在住の斎藤照夫さんをご紹介します。斎藤さんは、平成28年度に委嘱され、現在も精力的に活動をされています。斎藤さんのライフワークである、川口市民環境会議の自主事業「エコライフ DAY」(市、市教育委員会と共催)には、主体的に長年普及に取り組まれており、最近はコロナ禍の中でも継続できるようデジタルの立ち上げにも尽力されました。川口市のエコライフ DAY は多くのボラン



エコライフ DAY 活動の様子



温暖化についてのプレゼンテーションの様子



YouTube 動画「金星から見た地球温暖化」(3分21秒)の冒頭のショット

ティアの支えによって実施されていますが、チェックシートの精査・集計などの作業量は年延べ400時間以上にのぼり、高齢化とコロナ禍の中で継続が困難となっていました。このため、2022年からデジタル化を図ることになりました。資金と人材が乏しい中での作業は大変でしたが、2年目のエコライフ DAY2023では、63,279人の市民(川口市民の10.5%)がデジタルで参加してくれました。結果、56.3トンの二酸化炭素(CO₂)を削減できました。

斎藤さんのもう一つの活動は、川口市地球温暖化防止活動推進センタースタッフです。朝日リサイクルプラザに見学に来た子どもたちに、地球温暖化についてプレゼンテーションを行っています。さらに、コロナ禍等で来訪できない子どもたちのために YouTube 動画を作成し環境講座を発信しています。なんと YouTuber です！今後も地域に根差した推進員リーダーとして取り組んでいただけるよう応援しています。

令和5年度彩の国埼玉環境大賞受賞者の決定

彩の国環境大賞は、環境保全などに取り組む個人・団体とSDGsなど環境・社会・経済に統合的に取り組む事業者を表彰し、その功績をたたえるもので、埼玉県・株式会社テレビ埼玉・当センターが主催しています。今年度は約70件の応募の中から受賞者18組が決定し、2月8日に知事公館において表彰式が開催されました。

大賞
【県民部門】

NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 30by30実現のための里地里山の自然共生サイトへの認定

天覧山・多峯主山の保全・再生のため、国の重要調査(モニタリングサイト1000里地調査)を実施し、自然観察会等による普及啓発に取り組み、環境省の30by30アライアンスへも参画。自然共生サイトに認定された管理緑地(東谷津ほとけどじょうの里)では、ピザづくりなどを楽しみながら里山保全を行うエコツーリズム等の拠点として、県民などに広く利用される取組を展開したほか、継続的に植物や生き物の調査を実施する等が評価されました。



大賞
【事業者部門】

ヤマキ醸造株式会社

農業生産法人を組織し環境循環型農業に自ら取り組み、サステナブルな環境と食で未来を紡ぐ

農業生産法人を組織し、自然が育んだ作物を丸ごと活かせる製品づくりや有機栽培の実践、そして作業体験講座を継続実施し、環境循環型農業の実践及び普及啓発活動を展開。醤油や豆腐の製造過程で発生する搾り粕やおからを酪農家へ提供することで食品ロスを削減。また、規格外の野菜も漬物として製品化するほか、欠けやすく、消費期限が短い豆腐もドレッシングにアップサイクルするなど、有機農作物の廃棄量ゼロを目指すことが評価されました。





● 事務局からのお知らせ

令和6年度通常総会のお知らせ（予告）

日時 令和6年6月15日（土）午後1時30分～2時15分

会場 埼玉会館7B

議案 事業報告・事業決算、事業計画・事業予算、役員の変更

◎ **20周年記念式典&懇親会** 午後2時45分～

当団体は、令和6年度で創立20周年を迎えます。皆様のご参加とご支援のもと、埼玉県地球温暖化防止活動推進センターの指定もいただきながら、20年間温暖化防止や気候変動問題に取り組んできました。今回は総会終了後に、ささやかながら式典を予定しています。記念講演や懇親会等、詳細が決まりましたらホームページでアナウンスを致します。ぜひ、皆様ご参加ください。

表紙の説明

宇都宮市の公共交通ネットワーク



2023年8月23日に開業した宇都宮市・芳賀町をつなぐLRT（次世代型路面電車システム）です。「Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）」の略称で、各種交通との連携や低床式車両（LRV）の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代の交通システムです。宇都宮市では、少子高齢化に人口減少が加わる厳しい社会を生き抜くためには、車が運転できなくても多くの方が市内を移動でき、健康で元気に生活していくための公共交通ネットワークを作ることが必要であると考え、LRTを導入しました。JR宇都宮駅東口から、清原工業団地を通り、芳賀町の本田技研北門までを優先して整備を行いました。今後、西側への延伸も検討されるとのことです。電源はバイオマス発電や市内の太陽光発電などのCO₂を排出しない再生可能エネルギーを使っています。宇都宮市は、環境省の脱炭素先行地域に選定され、再生可能エネルギーの地産地消や普及拡大、二酸化炭素排出量の削減、および地域経済の活性化を目指します。

● 会員・寄付募集

認定NPO法人である当団体へのご寄付及び賛助会費は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれ定められた条件を満たすことで優遇対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。引き続き、皆様のご支援ご協力をお待ちしています。今年も多くの団体や個人の方からご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。



編集・発行

発行日 令和6年3月31日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL：048-749-1217 FAX：048-749-1218

<https://kannet-sai.org/>

閉館日 土・日・祝日、12/29～1/3 開館時間 9:00～17:00

情報やお知らせ等、是非お寄せください

